

立飛グループ創立100周年記念事業

立飛歌舞伎

特別公演

2025年10月
23日(木) 13時開演
24日(金) 13時開演
25日(土) 11時開演
26日(日) 17時開演
13時開演
*開場時間はいずれも開演1時間前
立川ステージガーデン

中村 志太郎

市川 團子

尾上 右近



尾上右近

藤間康詞



市川中車



市川團子



尾上右近



新説 小栗判官

將軍家の命により許嫁となった、智勇を兼ね備えた小栗判官と、常陸国の領主の娘、照手姫の物語。二人は国の権衡を企む横山大膳の計略によって離れ離れになってしまった。大膳は暴れ馬を使って小栗判官の命を奪おうとするが、小栗は得意の馬術でその馬を見事に手をずけてみせる。そして小栗は照手姫の父を救ったのが大膳だったことを知り、その仇を討つことを決意する。

この「小栗判官と照手姫」の物語は浄瑠璃や歌舞伎で数多くの作品に描かれてきた題材。今回は、三代目市川猿之助(二世市川猿翁)により復活上演された『雷世流小栗判官』をもとに、藤間勲十郎が脚本・演出・振付を手がけて新たな作品としてお届けする。中村耆太郎、尾上右近、市川團子による由緒りも見どころの一つ。

連獅子

能の「石橋」をもとに親子の情愛を描いた人気舞踊。狂言師右近と左近が清流山にある石橋を描写し、文殊菩薩の霊獣である獅子が仔獅子を千尋の谷に突き落とす。這い上がった子だけを育てるという「子落」としの伝説を踊りで描く。父の姿を見つけて舞い立つて仔獅子は這い上がり、親子は感動的再会を遂げる。そして法華僧の遺念と浄土僧の遺念がやってくるという間狂言では、お互いの宗派の違いから言い合いになっているうちに、おどろおどろしい山嵐が吹き、二人は驚いてその場を逃げてしまう。すると狂言師たちは後ジテとして親獅子と仔獅子の情となって現れ、獅子の毛振りで勇壮に舞納める。

中村耆太郎

